



2020年10月期 決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Dec.15th.2020



CONTENTS

1 2020年10月期 決算の概況

- 業績のポイント
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー
- 中期経営計画の進捗

2 2021年10月期 業績見通し

- 通期見通しサマリー
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

3 新中期経営計画

- 新中期経営計画の方針
- 主要課題への具体的な取り組み
- 新中期経営計画 売上高・営業利益 目標値
- 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム™」
- 新中期経営計画 経営指標

2020年10月期 決算の概況

売上高は光学ガラスやナノセラム™の減少等により減収、損益は生産設備の稼働率低下等により営業損失特別損失として固定資産の減損損失を計上

外部環境

- デジタルカメラ市場の縮小に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、需要が減少
- 露光装置市場は、FPD向けは弱含み、半導体向けは設備投資に改善傾向

当社業績

- 光事業はコロナ禍の影響により、光学機器用レンズ材の需要が大幅に減少。エレクトロニクス事業は、光通信向け硝材の需要は増加したものの、スマートフォン筐体向け硝材「ナノセラム™」においてサプライチェーンの工程認定に遅延が生じたことなどから、減収
- 営業損益は、生産設備の稼働率低下、棚卸資産の評価減、新型熔解炉への研究開発費を計上したことなどから営業損失
- 光学ガラスの需要減少に伴い、一部の生産設備について減損損失25億円を特別損失に計上

セグメント利益の

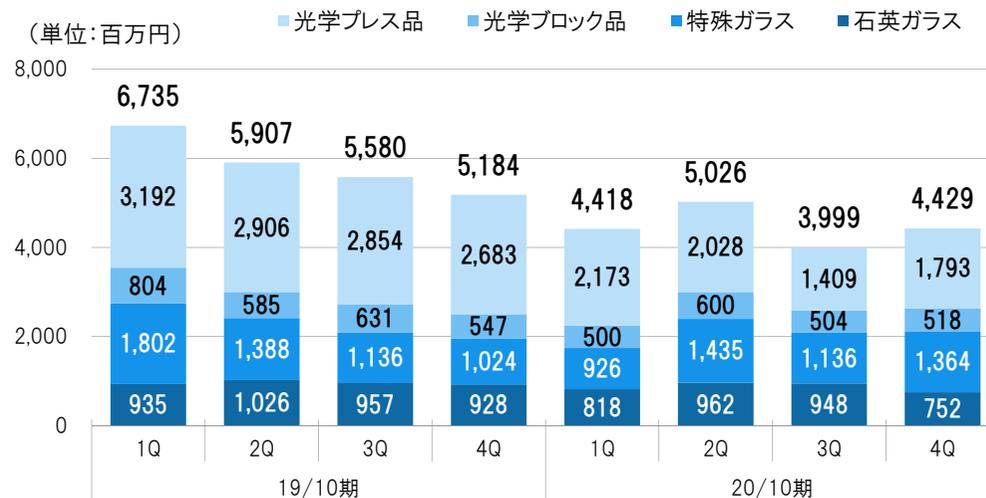
測定方法変更

- 19/10期2Qより、組織変更に伴い一部の費用の配賦方法を変更
19/10期における影響額は、光事業+35百万円、エレクトロニクス事業△35百万円

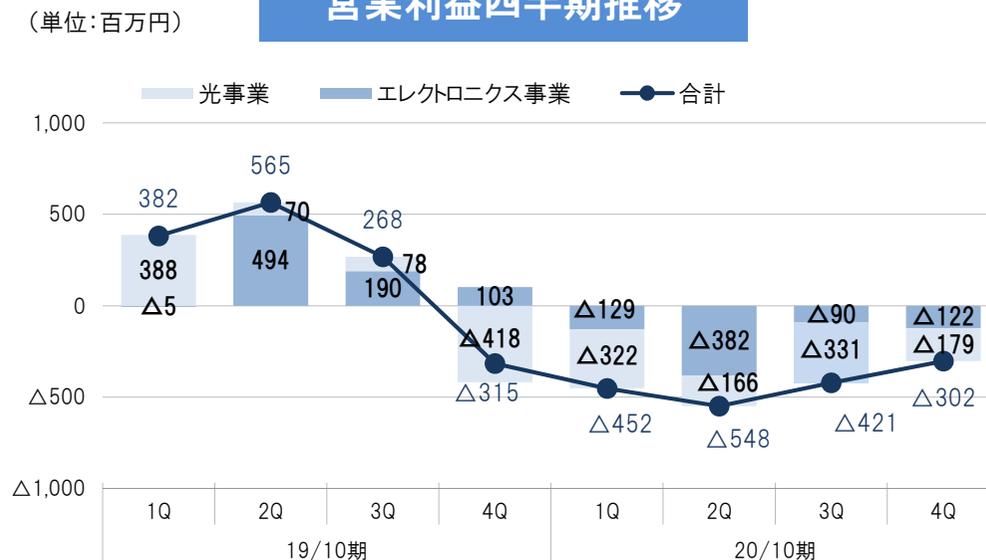
(単位:百万円、%)

	19/10期 通期	20/10期 通期	増減 増減率
売上高	23,407	17,873	△5,534 △23.6%
営業利益	901	△1,724	△2,625
[営業利益率]	3.8%	△9.6%	—
経常利益	1,146	△1,319	△2,465
[経常利益率]	4.9%	△7.4%	—
純利益 (親会社株主に帰属)	466	△4,243	△4,709
[純利益率]	2.0%	△23.7%	—
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 109.68 123.30	期中平均 107.61 121.18	

売上高四半期推移



営業利益四半期推移



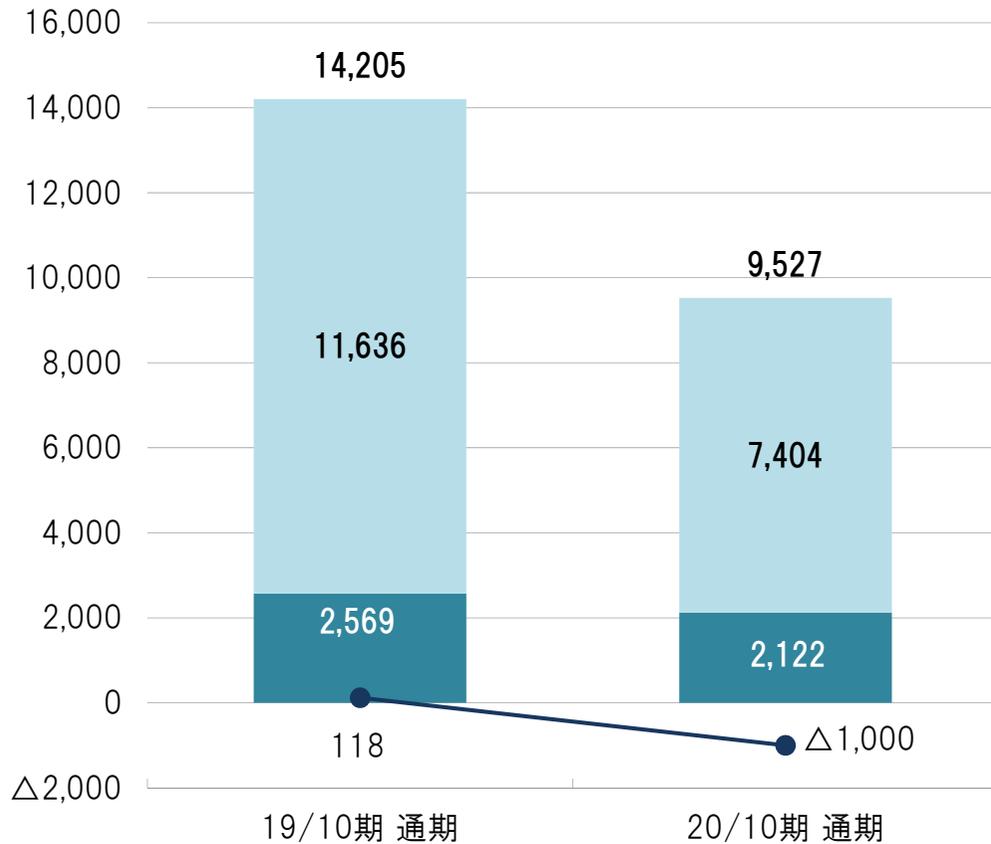
※19/10期 1Qは遡及修正しております

Copyright© 2020 OHARA INC. All Rights Reserved.

通期対比

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

(単位:百万円)

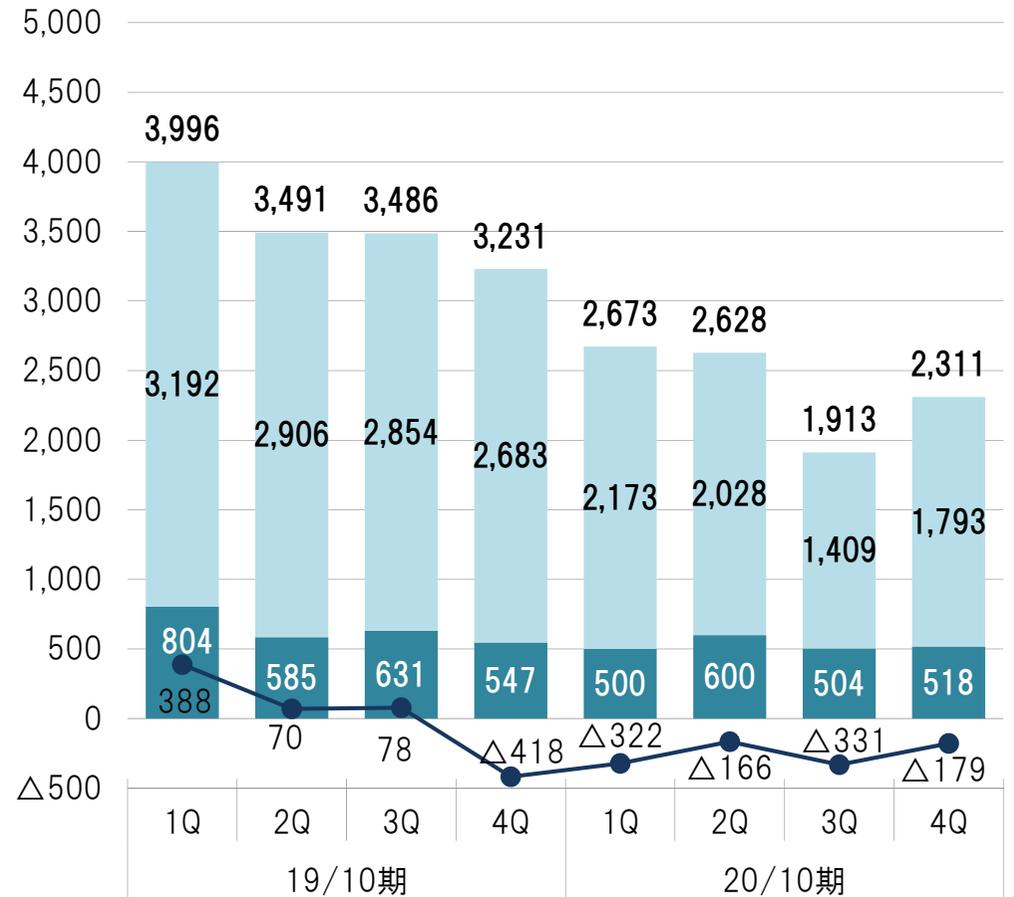


※19/10期 通期は遡及修正しております

通期推移

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

(単位:百万円)

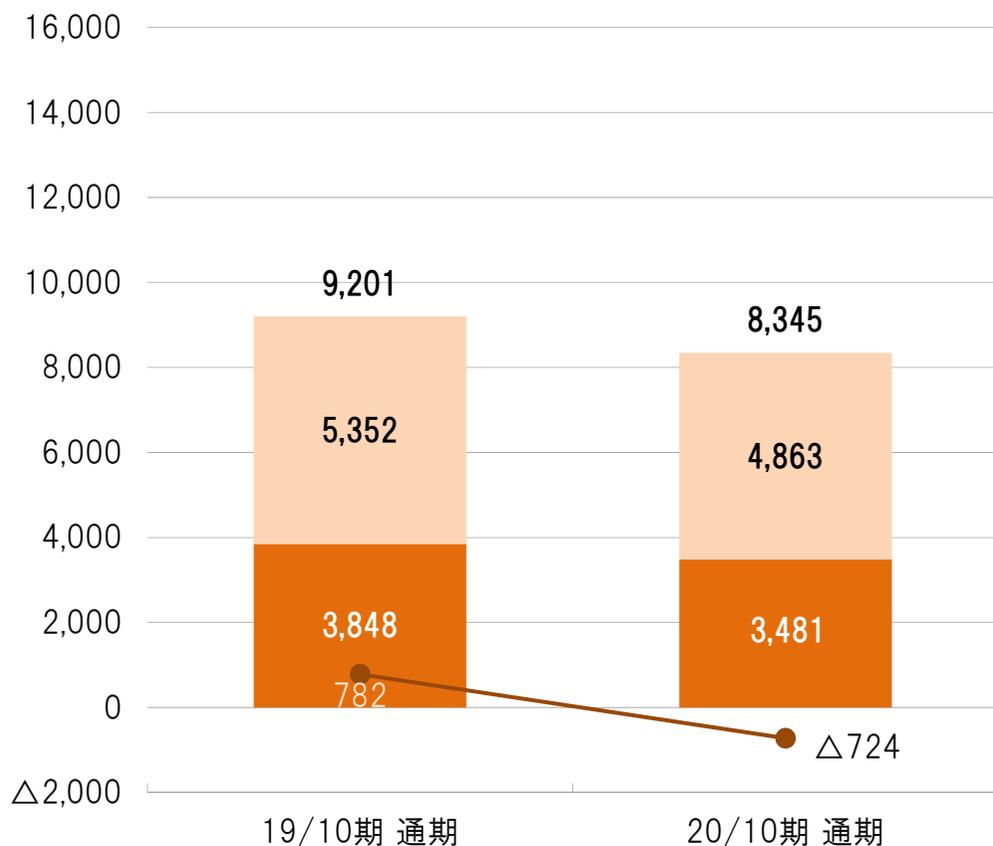


※19/10期 1Qは遡及修正しております

通期対比

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)

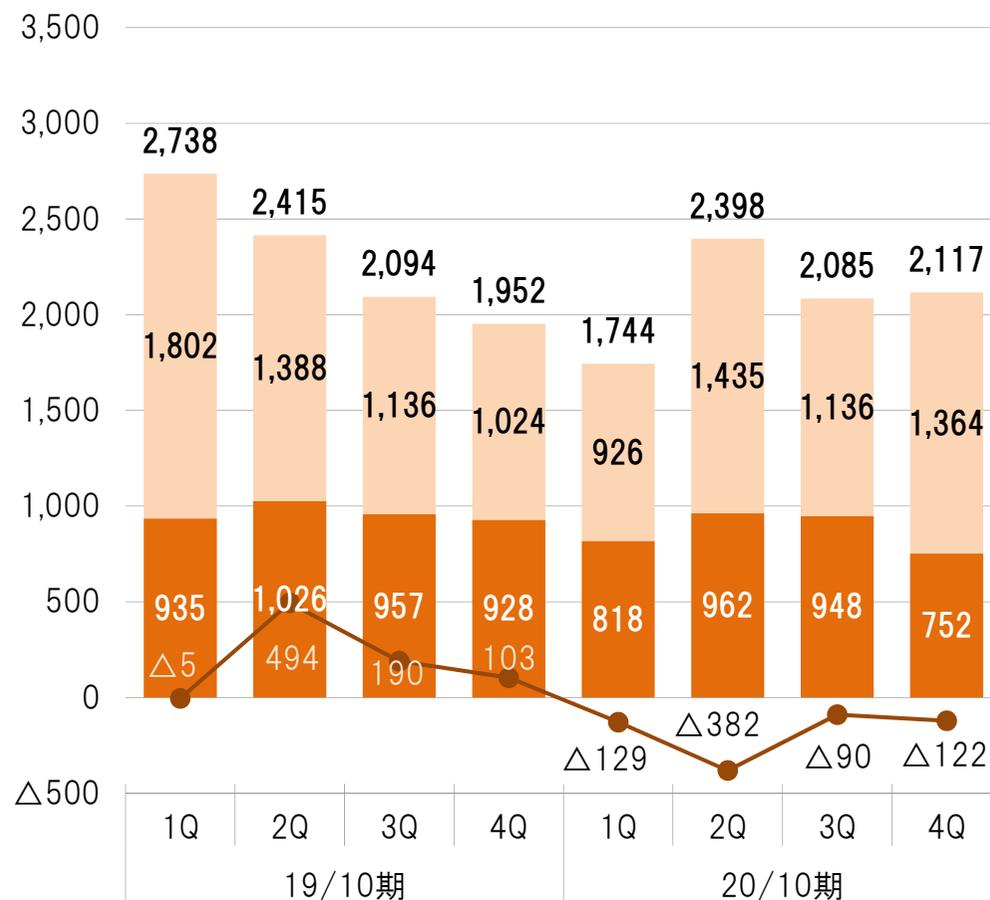


※19/10期 通期は遡及修正しております

四半期推移

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)

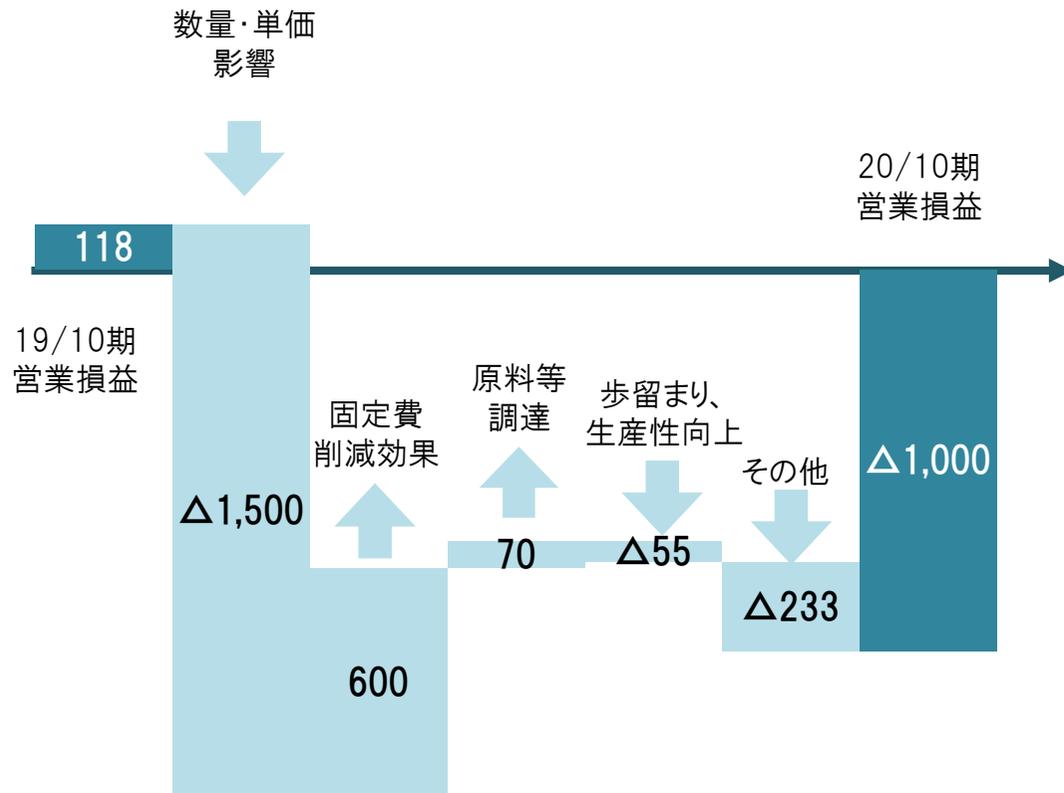


※19/10期 1Qは遡及修正しております

営業損益増減要因

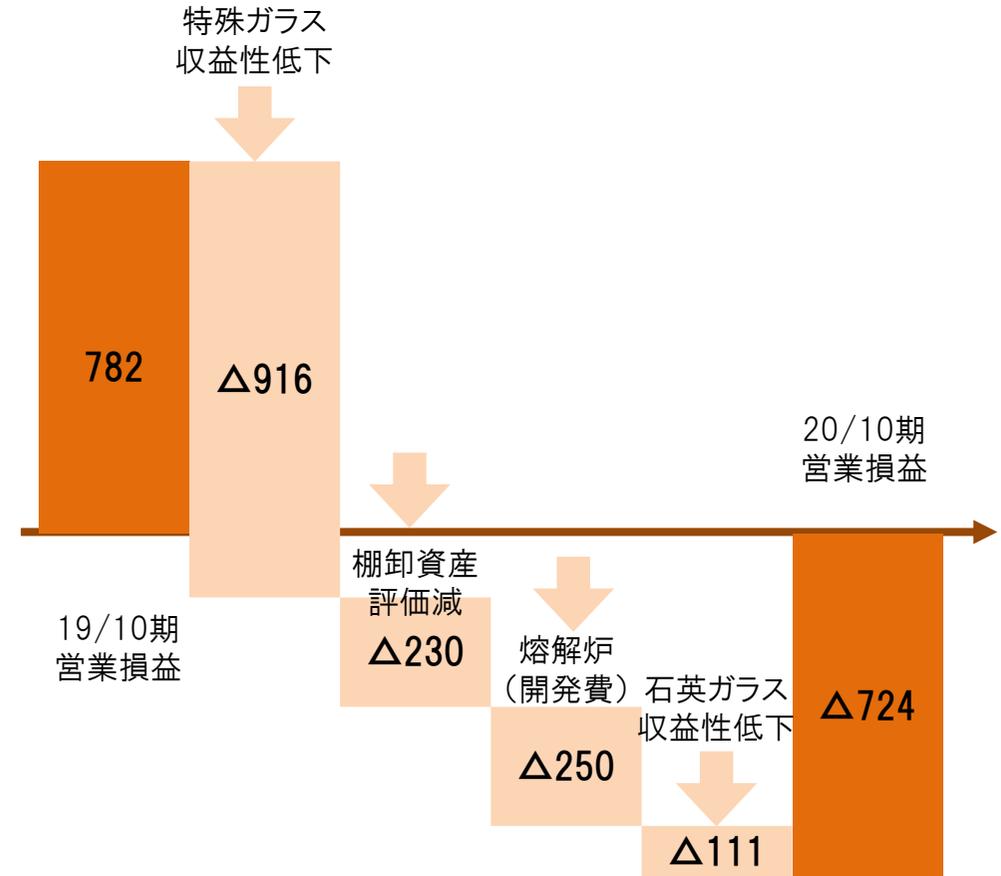
光事業

(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



営業CF増減主要因

(単位:百万円)

税金等調整前純損失	△3,861
減損損失	2,542
減価償却費	1,791
たな卸資産の減少による収入	1,391

投資CF増減主要因

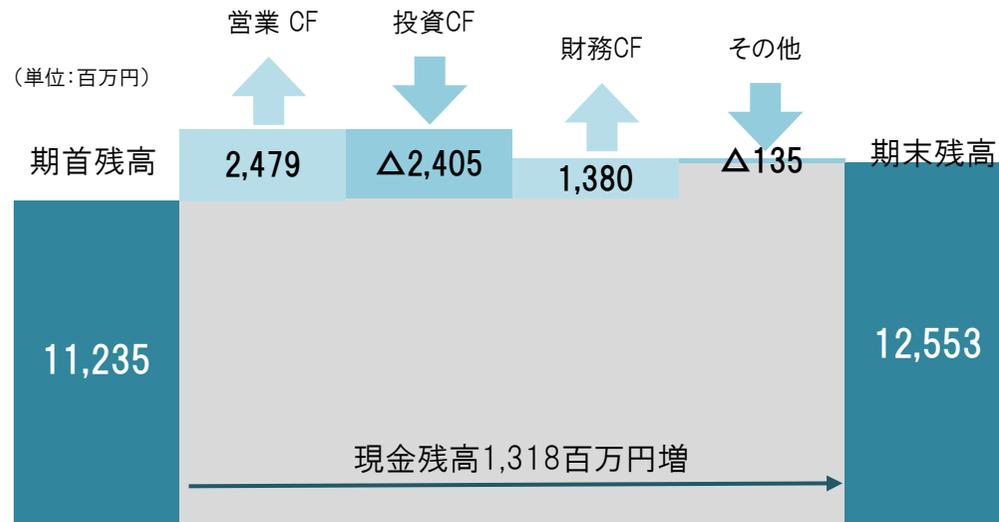
(単位:百万円)

有形固定資産の取得	△659
資産除去債務の履行による支出	△1,764

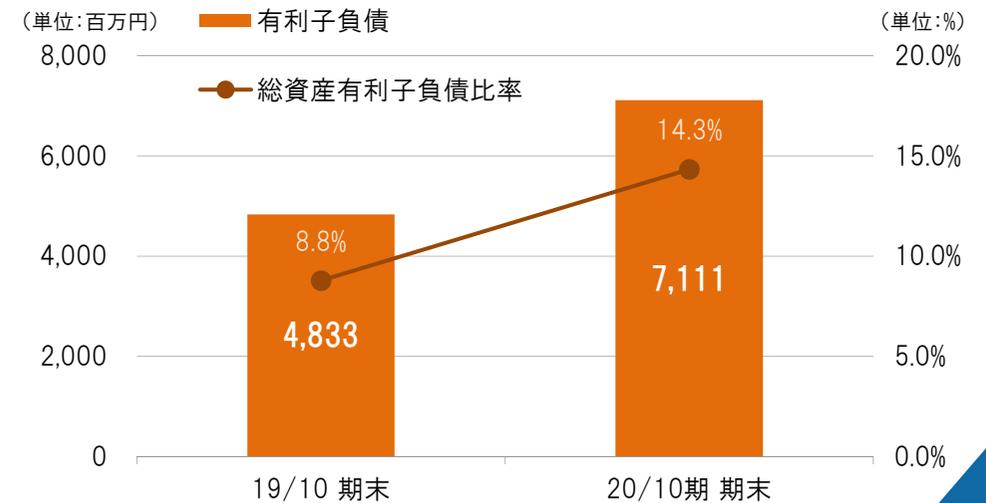
財務CF増減主要因

(単位:百万円)

有利子負債の増加	2,072
配当金	△367

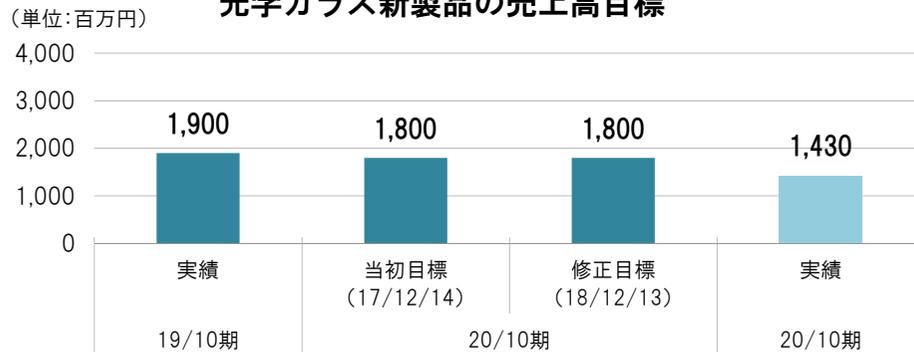


有利子負債



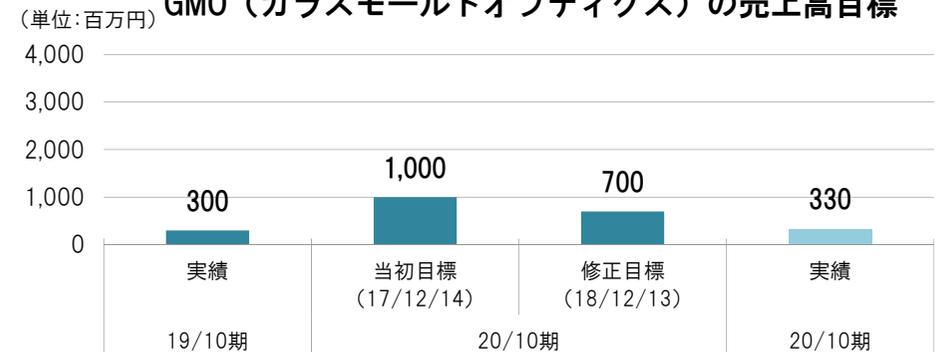
光事業

光学ガラス新製品の売上高目標



※車載カメラ向け以外の新製品も含む

GMO（ガラスモールドオプティクス）の売上高目標



エレクトロニクス事業

ナノセラム™の売上高目標



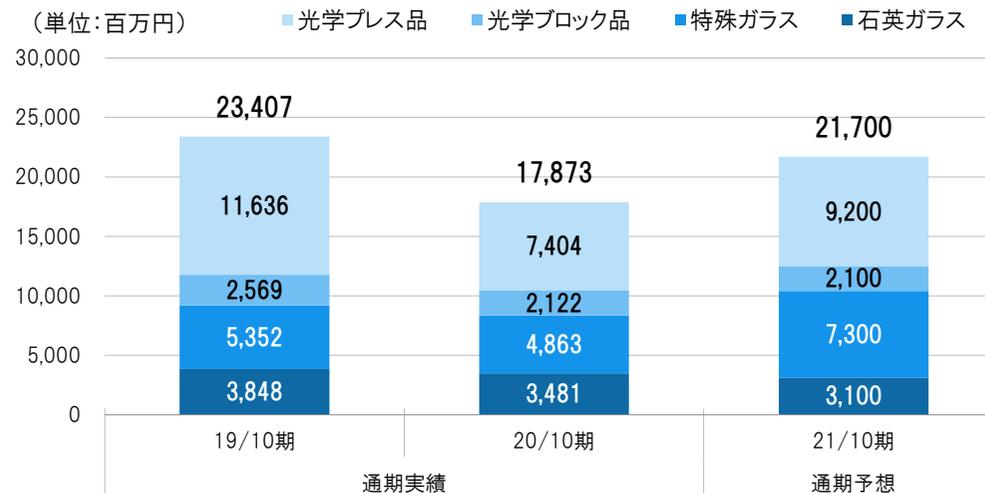
- デジタルカメラ市場の縮小や新型コロナウイルスの影響で、光学ガラスの売上が減少しているものの、新製品は、モバイル・モビリティ用途で着実に需要を獲得している。
- GMOは、顧客からの技術的評価は高く、新規需要に期待。
- 「ナノセラム™」は、スマートフォン用途で量産に向けた実機試験を継続中。

2021年10月期 業績見通し

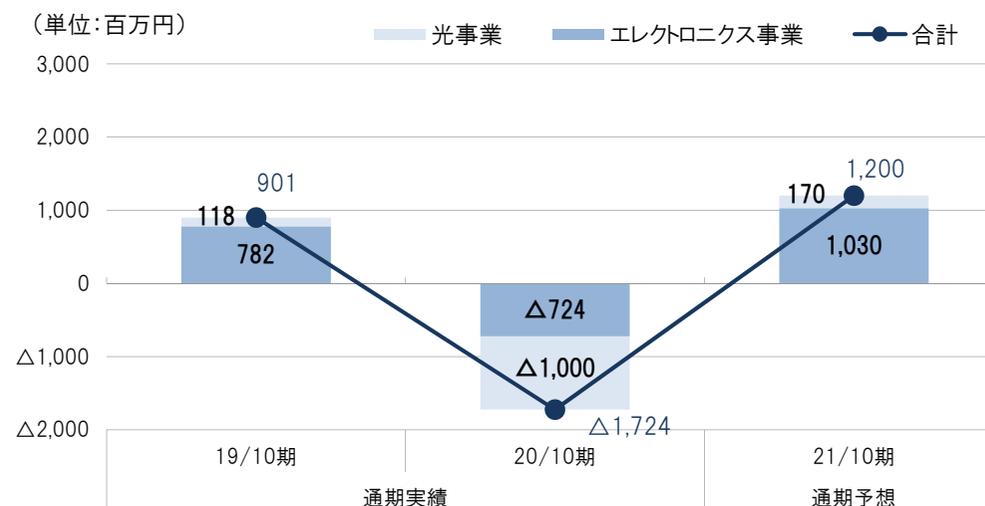
(単位:百万円、%)

	20/10期 通期	21/10期 通期予想	増減 増減率	21/10期 上期予想
売上高	17,873	21,700	3,826 21.4%	9,400
営業利益	△1,724	1,200	2,924	0
[営業利益率]	△9.6%	5.5%	—	—
経常利益	△1,319	1,300	2,619	100
[経常利益率]	△7.4%	6.0%	—	1.1%
純利益 (親会社株主に帰属)	△4,243	600	4,843	100
[純利益率]	△23.7%	2.8%	—	1.1%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 107.61 121.18	期中平均 105.00 125.00		
年間配当金 (円)	10.00	10.00		

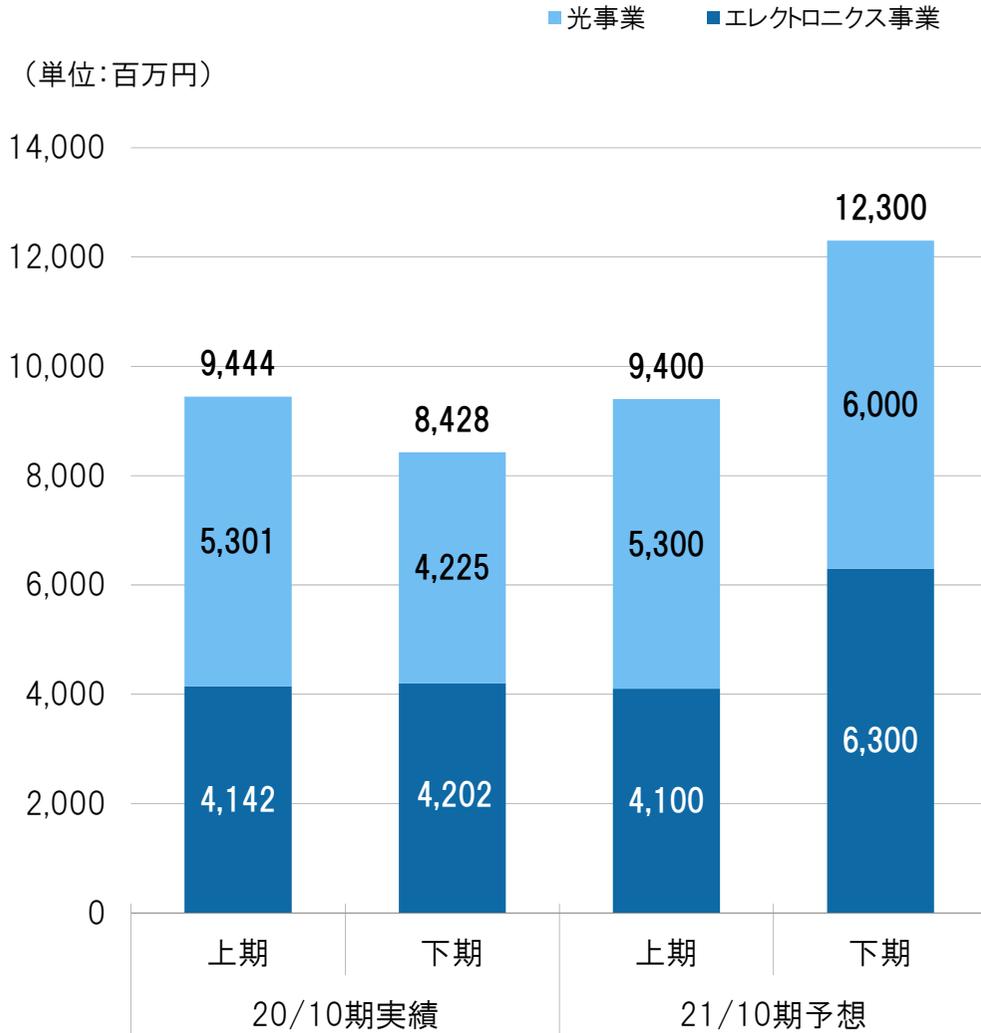
売上高内訳



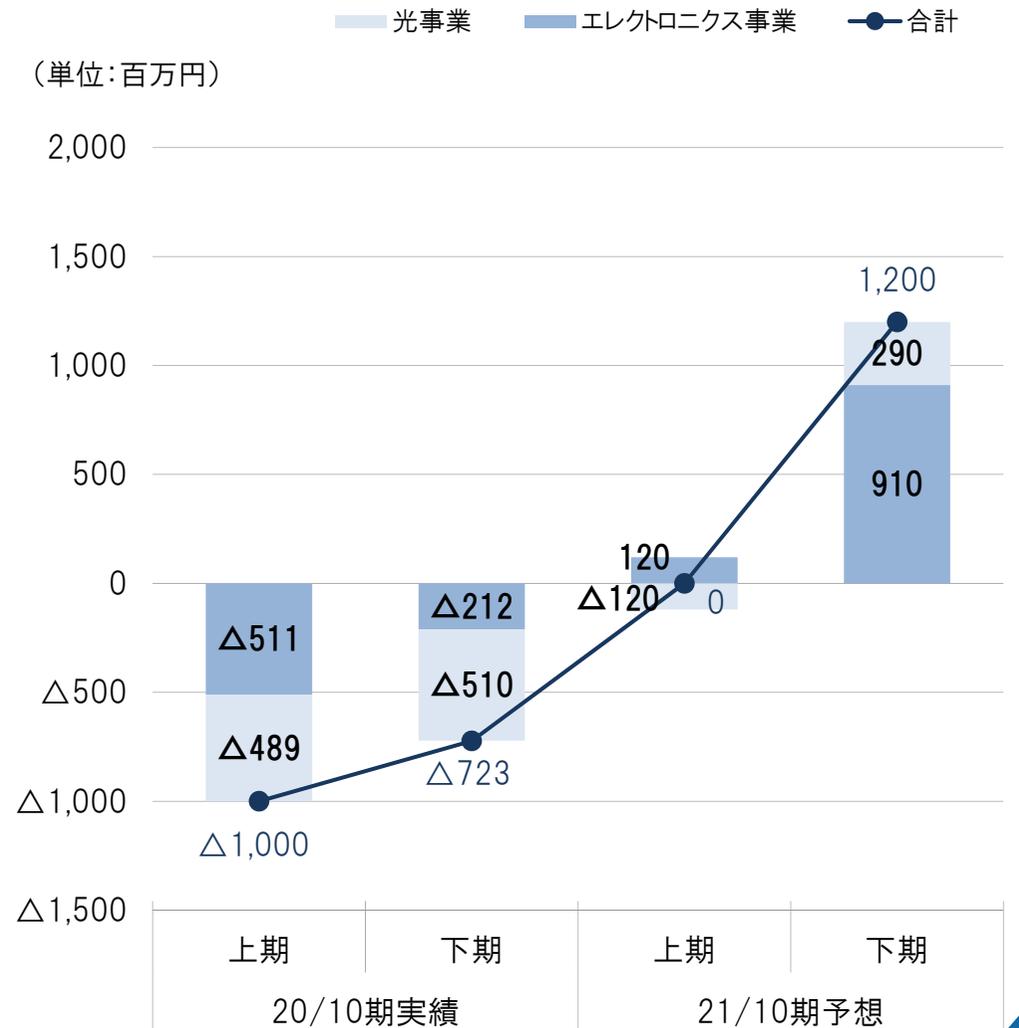
営業利益内訳



売上高



営業利益



光学レンズ向け材料の販売に関しては、2020年10月期3Qを底に徐々に回復する見込み

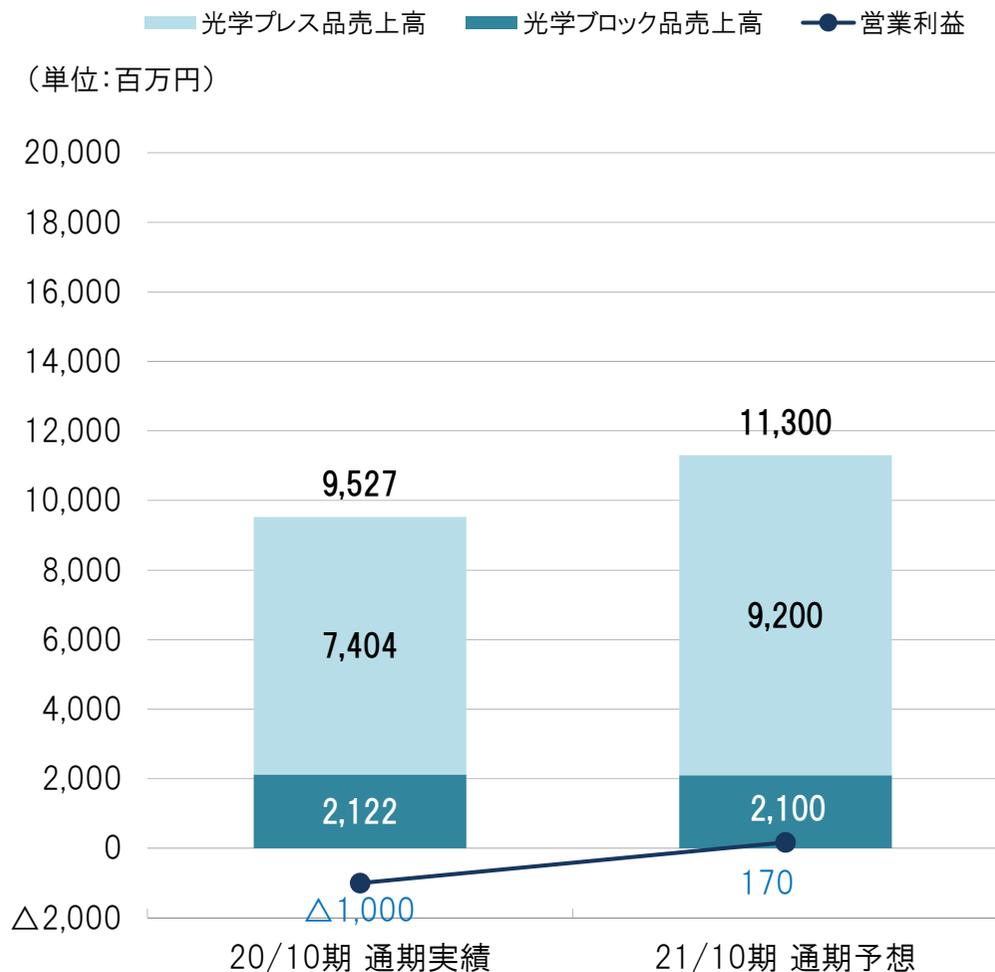
事業環境

- デジタルカメラ市場は、ミラーレスカメラを中心に市場の縮小に底打ち感が見え始めている
- 車載カメラなどの分野では、高精細化の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み

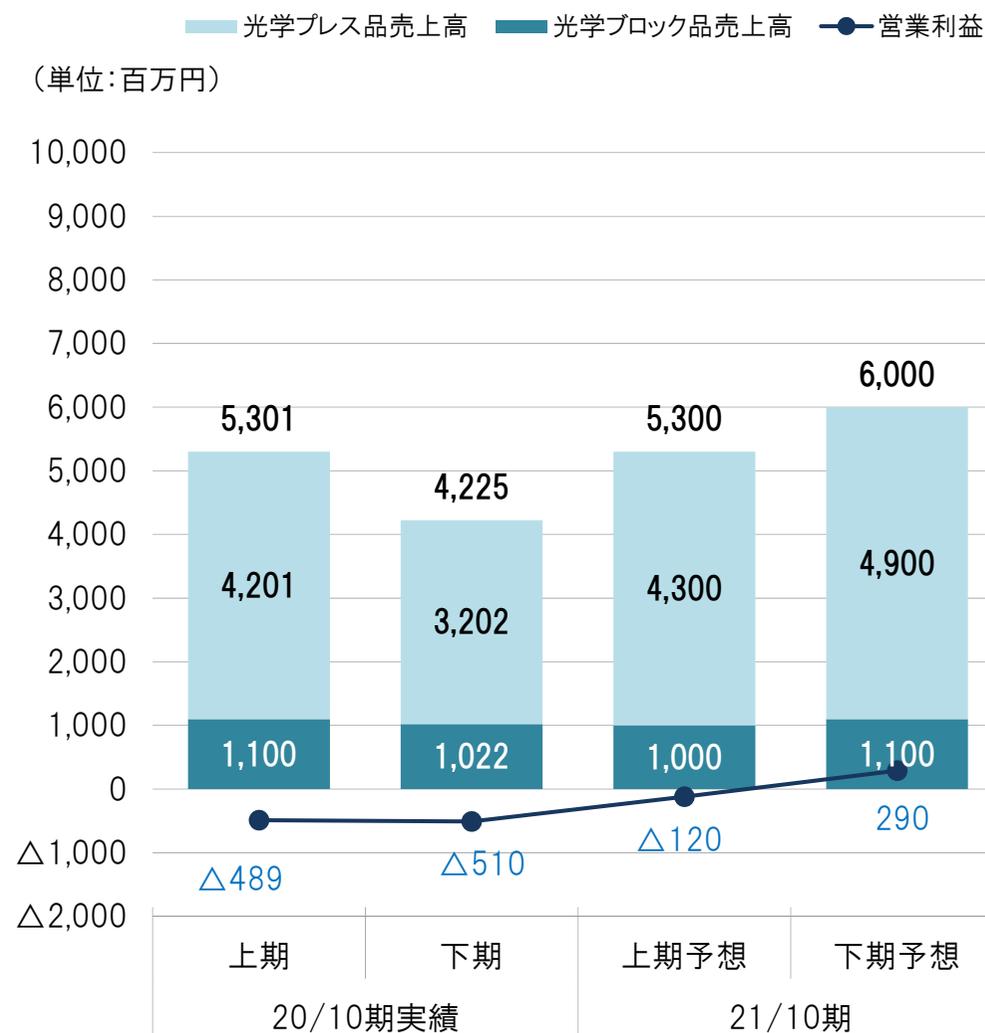
当社状況

- 光学レンズ向け材料の販売に関しては、2020年10月期3Qを底に徐々に回復する見込み。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響による急激な需要減少の反動から回復傾向となっている可能性もあり、市場動向を見極めている状況
- レンズ加工品の販売を強化し、また車載レンズ等の拡販を通してデジタルカメラ向け光学プレス品の減少を補う

通期対比



半期推移



エレクトロニクス事業見通しのポイント

「ナノセラム™」は、スマートフォン用途で量産に向けた実機試験を継続中
2021年10月期は、通期売上20億円を見込む

事業環境

■露光装置市場

FPD向け及び半導体(i線ステッパー)向けは、堅調に推移する見込み

■光通信市場

第5世代移動通信システム(5G)の環境整備に向けた設備投資が進展する見込み

当社状況

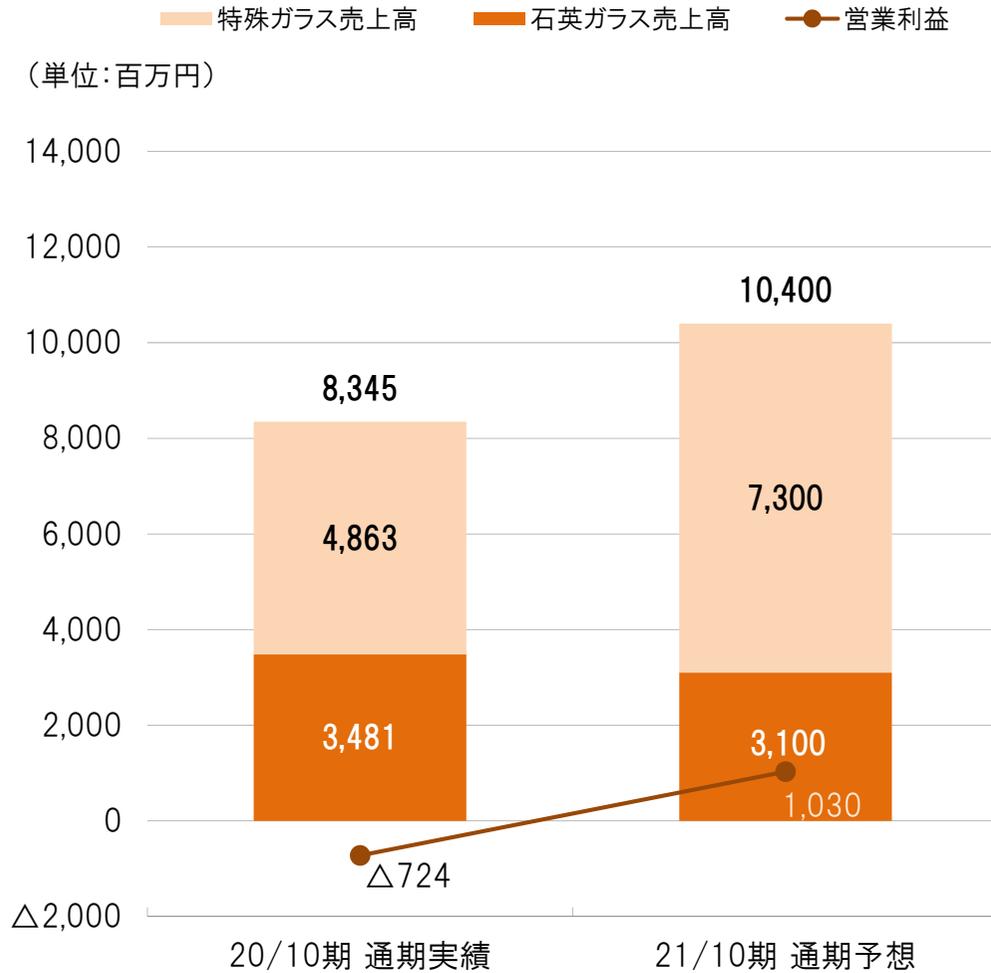
■「ナノセラム™」は、スマートフォン用途として、通期売上20億円を見込む

■FPD露光装置向け極低膨張ガラスセラミックスの需要は堅調に推移する見込み

■半導体露光装置向け(i線向け)高均質ガラスの需要は堅調に推移する見込み

■光通信機器向けガラス素材「WMS™-15」の需要は堅調に推移する見込み

通期対比

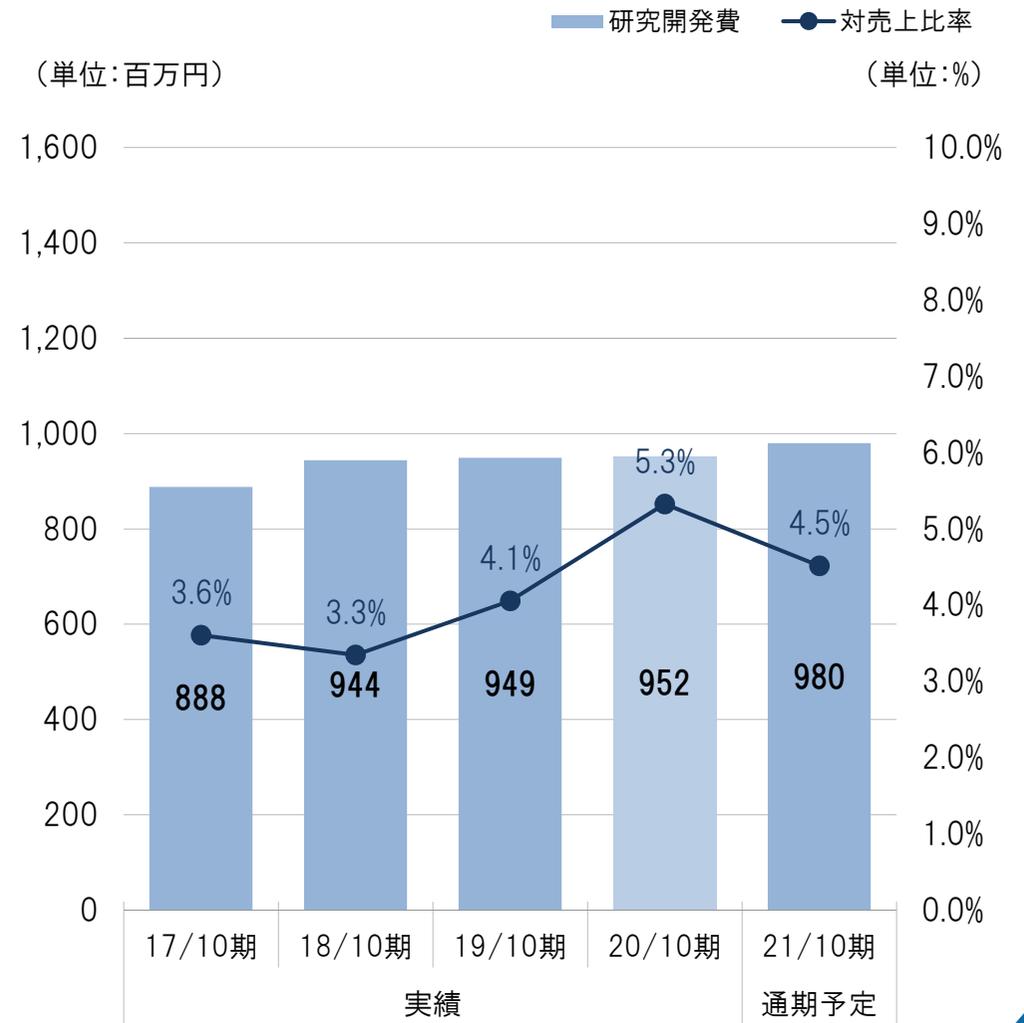
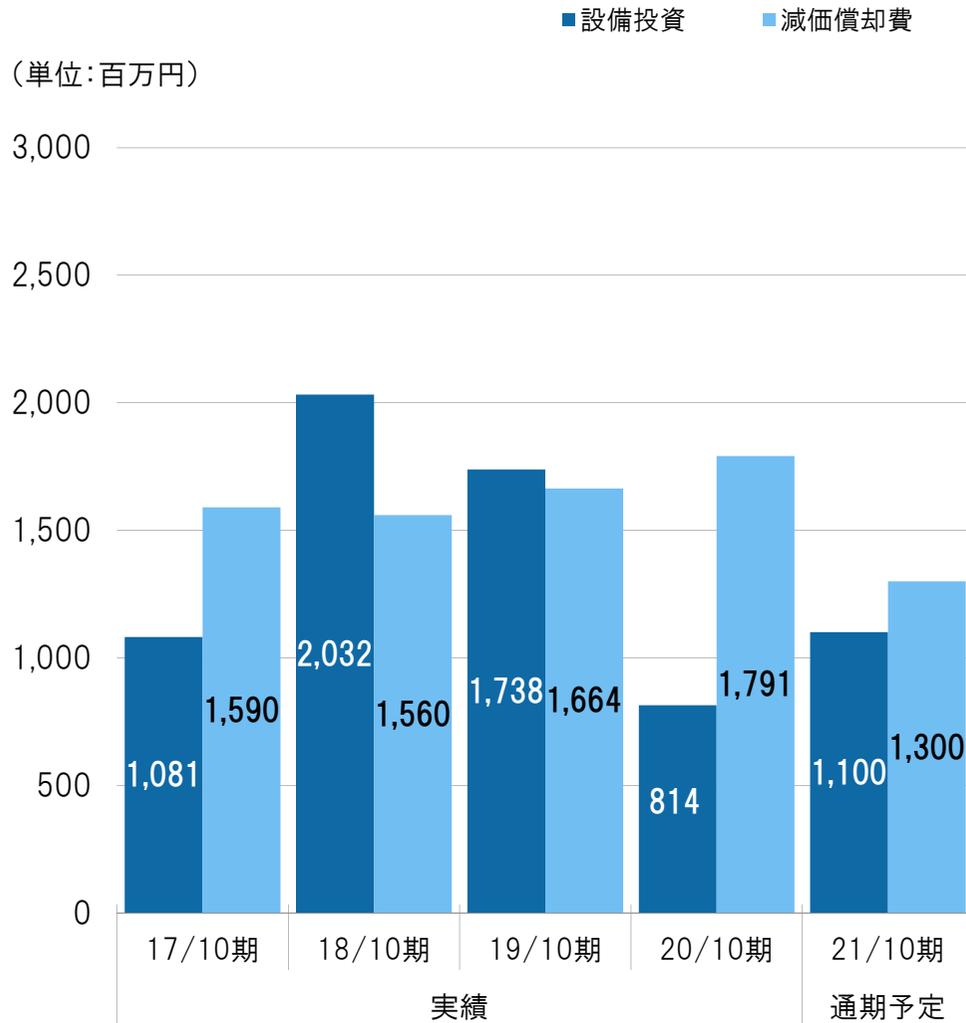


半期推移



設備投資、減価償却費

研究開発費



新中期経営計画

2021年10月期～2023年10月期

『市場変化のスピードに負けない機敏性』

『新陳代謝の加速』

収益力挽回

競争力向上

経営体質強化

- コロナ禍で落ち込んだ業績を挽回する
- 事業構造の立て直しと収益性の改善を進める

2021年10月期から2023年10月期までの3カ年は、事業構造の立て直しと収益性の改善を軸とした中期経営計画を策定いたしました。新たな長期ビジョンにつきましては、足元の難局を乗り越えた後に、あらためて発表することといたします。

収益力挽回・・・販売を強化する市場・製品

モバイル

- ・スマートフォン筐体
- ・カバーガラス
- ・カメラ用光学ガラス

モビリティ

- ・光学センサーカメラ
- ・LiDARセンサーカメラ
- ・カバーガラス
- ・アクセサリ

バッテリー

- ・全固体電池
- ・液系電池添加剤

メディカル

- ・内視鏡
- ・顕微鏡
- ・眼底カメラ
- ・理化学機器

競争力向上・・・生産性・収益性の向上

販売体制強化

- ・マーケティング活動の強化
- ・アジア地域営業拠点の再編
- ・新規販売エリア開拓

生産技術力の強化

- ・熔解技術開発
- ・成形技術開発

次世代新製品開発

- ・Society5.0に貢献する材料開発

経営体質強化・・・組織の新陳代謝の加速

構造改革

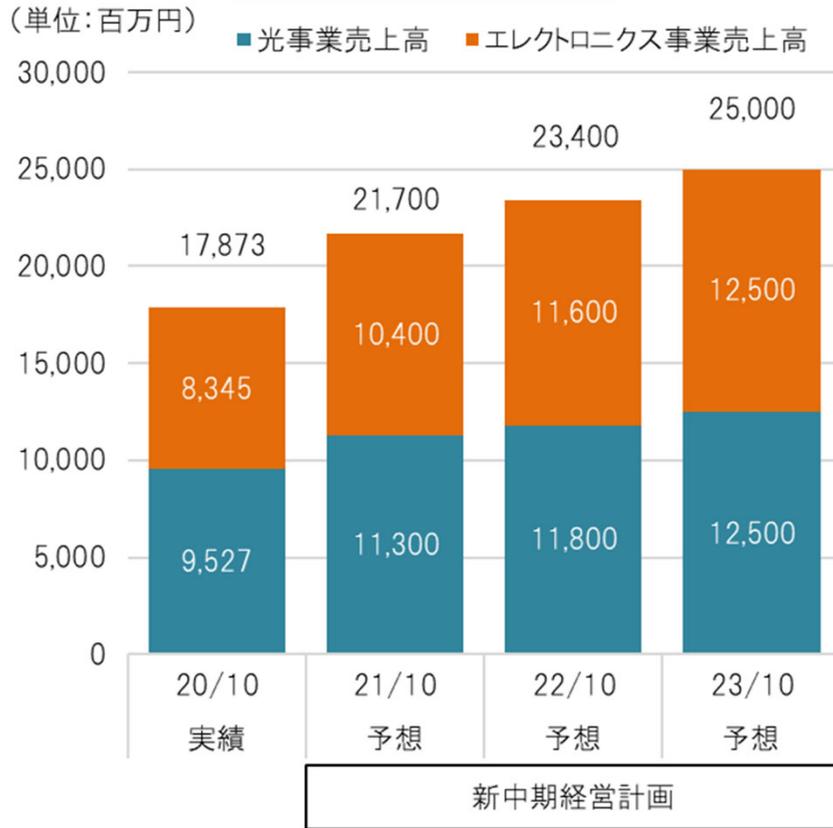
- ・組織能力、新領域への対応力強化

外部連携強化

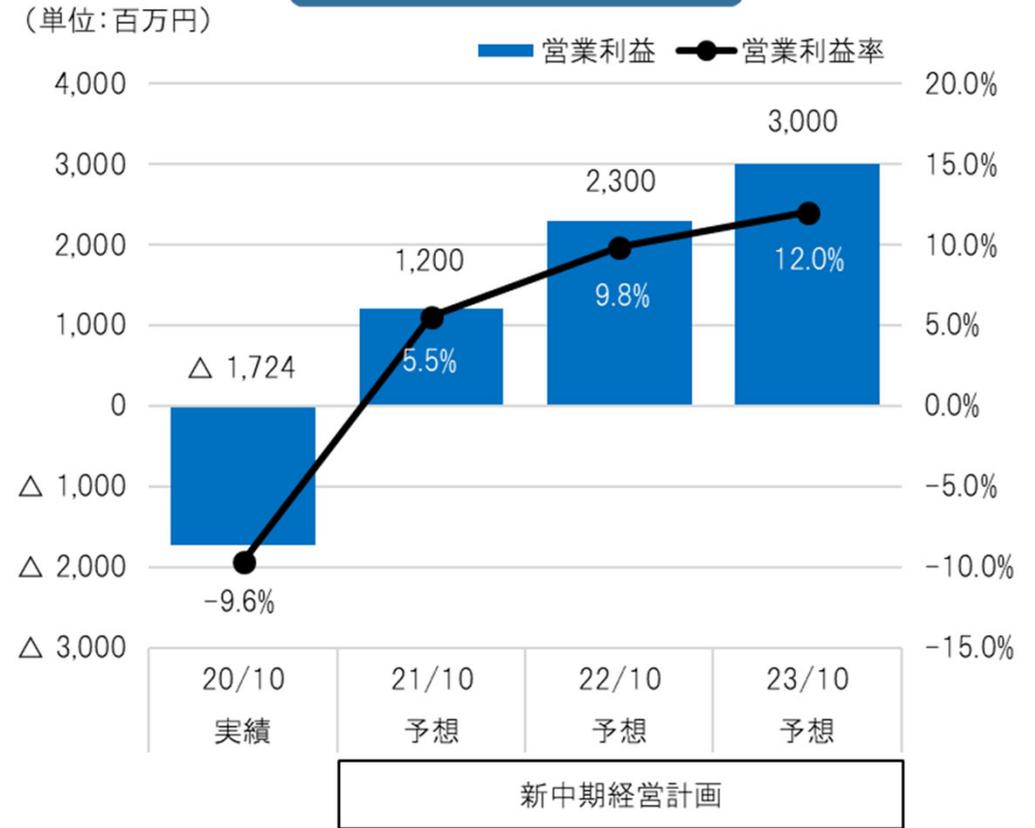
- ・協業などによる早期事業化の検討

新中期経営計画 売上高・営業利益 目標値

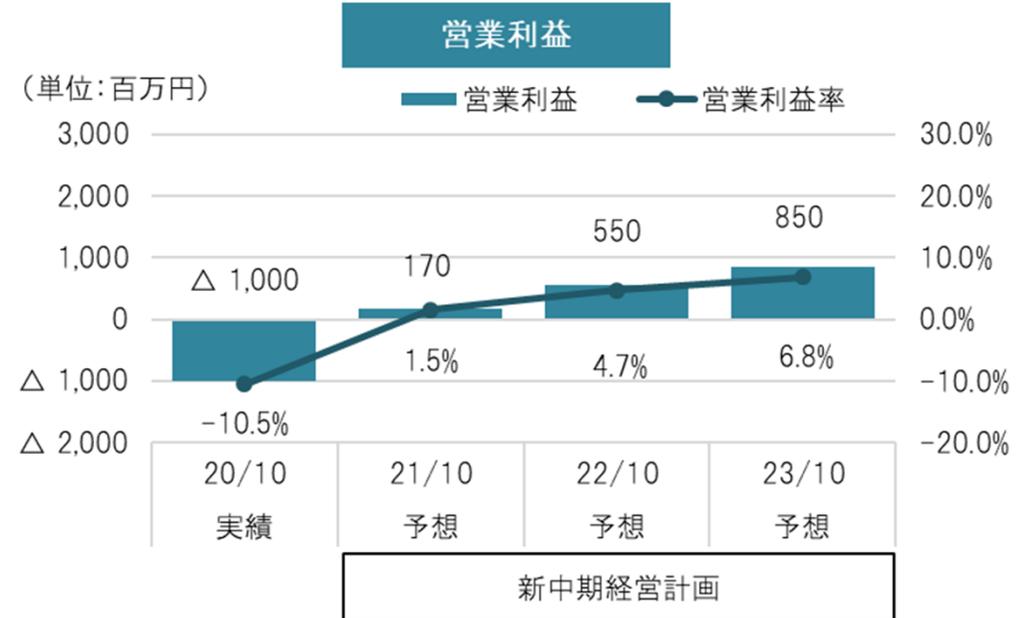
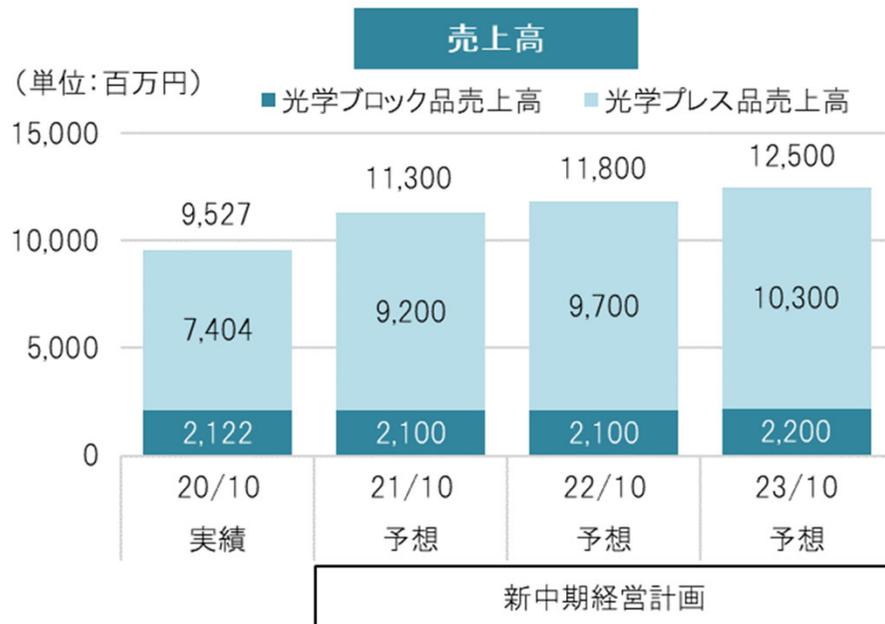
売上高



営業利益

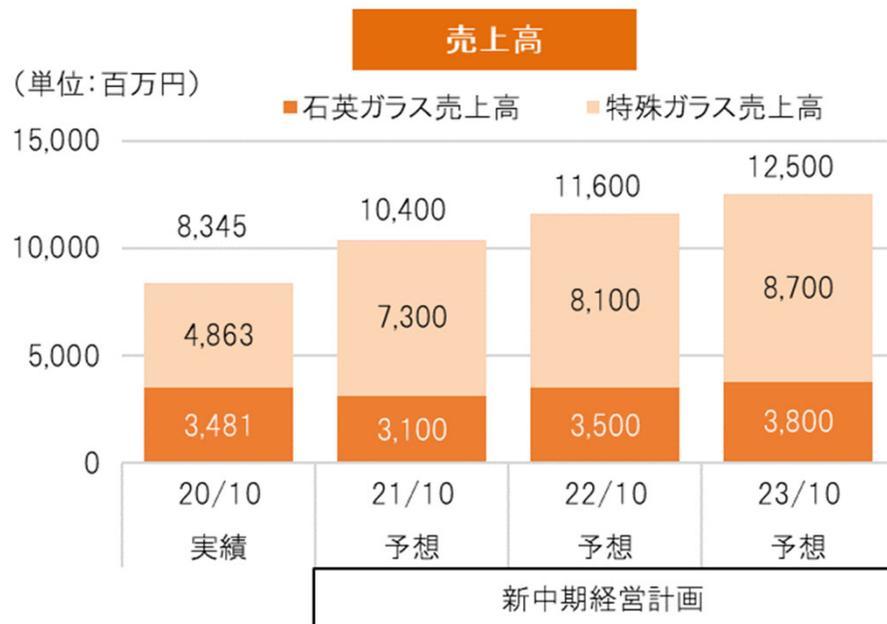


光事業



- ガラスモールドレンズなど付加価値の高いレンズ加工品の販売比率を高める。
- モバイル、モビリティ、メディカルなど、デジタルカメラ以外の用途に向けたマーケティング活動や拡販活動に注力する。
- 光学ガラスの需要量を踏まえ、生産体制の再構築やエレクトロニクス事業へのシフトを進める。

エレクトロニクス事業



- 露光装置、宇宙・天文向け及び光通信関連については、需要動向を的確に捉え、受注を獲得していく。
- ナノセラム™は、スマートフォン向けのみならず、素材の特性を活かした用途展開を目指し、車載用途等への拡販活動に注力する。
- LICGC™は、全固体電池における実用レベルの特性実現を目指すとともに、液系リチウムイオン電池の特性向上につながる添加剤としての拡販を進めていく。

NANOCERAM™

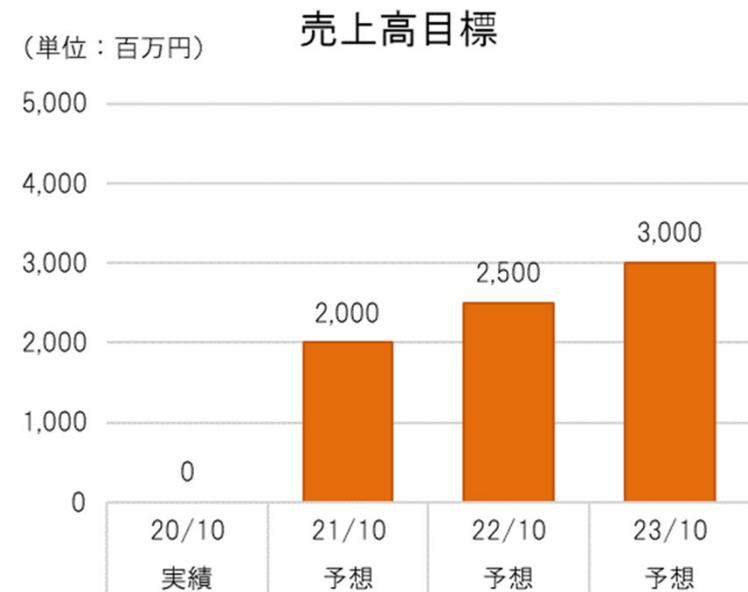
- スマートフォントップカバー/筐体向けとして、実機試験に移行。量産化に向けた活動を実施。
- パイオニア株式会社の車載センサープロテクターとして採用が決定。
- スマートフォン以外の用途も、評価や市場開拓を進めている。
 - 車載センサーのプロテクター、インパネ
 - スマートフォン用アクセサリ
 - スマートウォッチ、タブレット
 - 理化学機器市場

ナノセラム™とは

これまで多くの先端分野で認められてきたオハラの結晶化ガラス技術を更に進化させ、優れた機械的特性、高透過率を実現したガラスセラミックスです。耐衝撃性が求められる光学機器やモバイル機器などのカバーガラス等、サファイアクリスタルガラスや化学強化ガラスでは実現できない新たなご提案が可能です。

特徴

- ・耐衝撃特性・高硬度
- ・良好な加工性
- ・高透過率
- ・5G対応、低誘電率



	直近実績 (2020年10月期)	新中期経営計画 目標 (2023年10月目標)
売上高	178億円	250億円以上
営業利益	△17億円	30億円以上
自己資本利益率 (ROE)	---	6.5%以上
エレクトロニクス事業 売上高比率	46.7%	50%以上

Appendix(参考資料)

持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献

NANOCERAM™ for SDGs

モバイル

ICT社会への貢献

Information Communication Technology
情報伝達技術

IoTにより様々な機器が接続される時代において、モバイル機器はあらゆる用途の窓口になる。
強く割れない安全なナノセラム端末で人類の生活の向上に貢献する。

- ・通信
- ・医療、健康、福祉
- ・セキュリティ
(交通、テロ、犯罪、自然災害 等)
- ・教育
- ・スマートホーム

硬くて割れないナノセラム™の端末

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に

モビリティ

MaaS社会への貢献

Mobility as a Service ICTを活用しクラウド化された全ての交通手段＝モビリティを1つのサービスとしてシームレスにつなぐ新たな「移動」の概念

自動車業界は100年に一度の大変革期を迎え、交通の概念は大きく変化する。
ICT社会が創り出すMaaSで要求される素材として、ナノセラムでオートモーティブ製品の発展に貢献する。

- ・ADAS機器のセンサー保護カバー
- ・液晶パネル多用化と割れの安全対策
- ・燃費電費対策＝窓ガラスの薄型軽量化
- ・透明構造材としての検討(死角対策)
- ・道路監視LiDARカバーガラスへの検討

車社会の環境対策や安全性向上に貢献するナノセラム™

持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献

CLEARCERAM™-Z for SDGs

半導体・センシング

ICT社会への貢献

Information Communication Technology
情報伝達技術

IoTにより接続される様々な機器には、半導体やセンサーが不可欠となる。トリオンセンサー時代へ向けて、半導体露光装置等の構造部材としてクリアセラム-Zは不可欠な材料である。

- ・通信
- ・交通、モビリティ
- ・医療、健康、福祉
- ・セキュリティ
(交通、テロ、犯罪、自然災害 等)
- ・教育
- ・スマートホーム

人類の新たな発展に必要な
クリアセラム™-Z



宇宙天文・航空

再加速する宇宙開発への貢献

Science and technology innovation (STI)
科学技術イノベーション

進歩し続ける宇宙開発、更には民間企業の急速な宇宙ビジネスの立上げにより、宇宙天文分野は新たな時代へ突入する。アポロ計画の時代から、宇宙開発に材料を供給し続けてきた。今後も先端技術を蓄積し貢献していく。

- ・民間のロケット打上げビジネス
- ・小型人工衛星ビジネス
(衛星コンステレーションの6G通信を含む)
- ・月面開発計画(日本含む各国)
- ・MaaSによる航空ビジネスの新需要
(ドローン、無人飛行機、空飛ぶ車の実用化)

宇宙天文での強い実績を持つ
クリアセラム™-Z

持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

LICGC™ for SDGs

バッテリー

CO2削減、環境問題、安全への貢献

温室効果ガスの排出を削減するために様々な交通手段の内燃機関が電動化される。自動車を中心とした交通手段のEV化には、安全・高性能なバッテリーが必要とされるため、LICGCで様々な用途で貢献していく。

- ・電解質
- ・セパレーター
- ・CO2センサー
- ・次世代のキャパシタ
- ・海水中のリチウムイオン回収技術

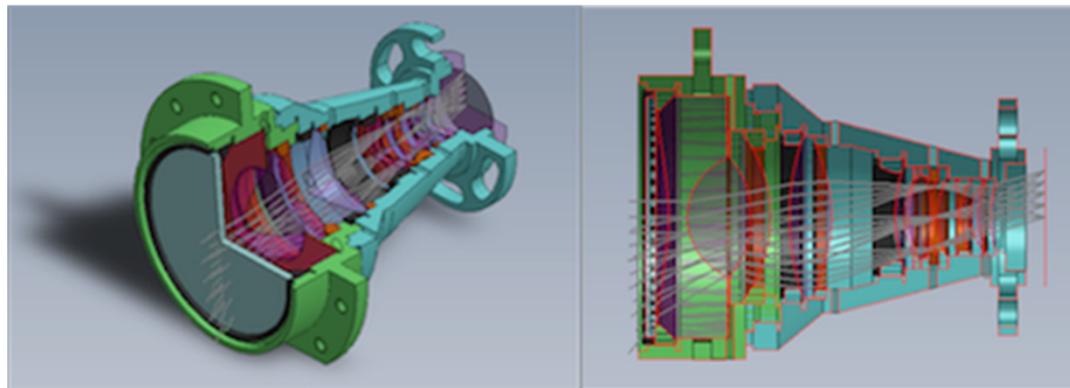
環境と安全を守るLICGC™



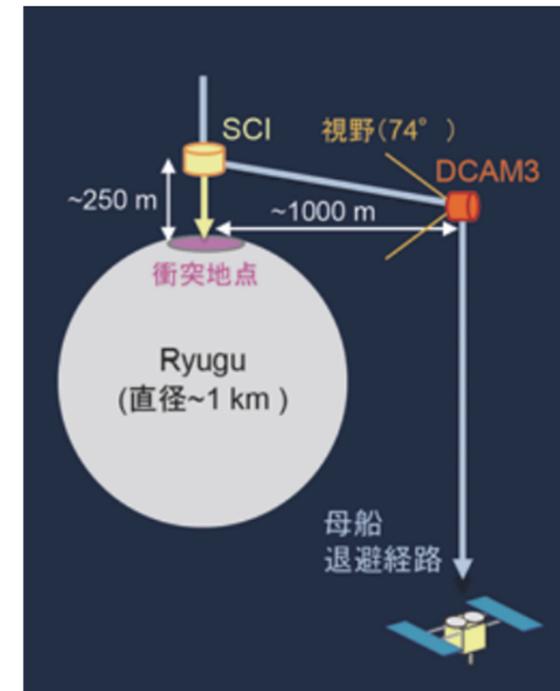
Topics①／光学ガラスが「はやぶさ2」の分離カメラに採用

2020年12月6日に帰還を果たした小惑星探査機『はやぶさ2』の分離カメラ(DCAM3)に、当社の「光学ガラス」が採用されております。

『はやぶさ2』に搭載した衝突装置(SCI: Small Carry-on Impactor)から発射した衝突体を、小惑星 Ryugu(リュウグウ)の表面に衝突させることで人工クレーターを生成しましたが、このSCIの衝突時の写真を撮影したのが『はやぶさ2』より分離されたカメラです。リュウグウ表面からの噴出物(煙)の様子が捉えられていたことから、SCIが計画通り作動したと判断されました。



フォトコーディングウェブサイトより抜粋
<http://www.photocoding.com/>



宇宙航空研究開発機構研究開発報告
“Hayabusa2分離カメラ用硝材のガンマ線照射試験”
(ISSN 134901113/JAXA-RR-15-005)より引用

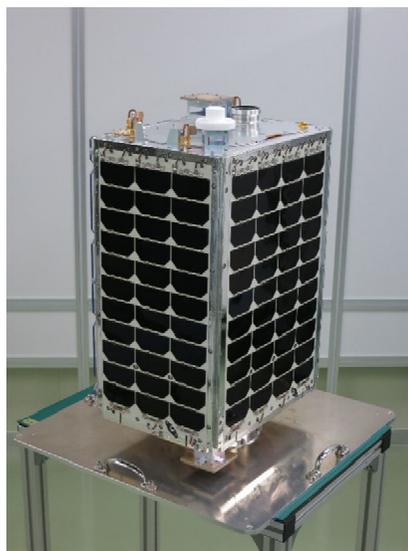
Topics②／極低膨張ガラスセラミックスと耐放射線光学ガラスが キヤノン電子の超小型人工衛星3号基に採用

当社の極低膨張ガラスセラミックス『クリアセラム™-Z』、及び耐放射線光学ガラスが、キヤノン電子株式会社の超小型人工衛星3号基に採用されました。

キヤノン電子の超小型人工衛星3号基「CE-SAT II B」は、2020年10月にニュージーランドの射場より打上げ、地上分解能約5mの画像を撮影可能な民間開発衛星です。

夜間の撮影が可能な超高感度カメラも搭載しています。

衛星カメラのレンズに相当するミラー材料として、当社の『クリアセラム™-Z』が使用されています。また反射望遠光学の補正光学系、及び恒星センサには当社の耐放射線光学ガラスが採用されています。耐放射線光学ガラスは、放射線量の高い宇宙空間での使用が可能となっている光学ガラスです。



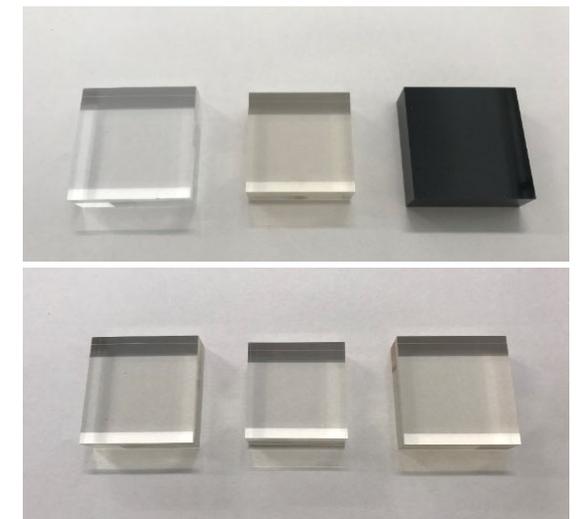
超小型人工衛星「CE-SAT- II B」



人工衛星搭載用反射望遠光学系



恒星センサ



放射線照射によるガラスの着色
(左から照射前、0.2kGy照射後、2.0MGy照射後)

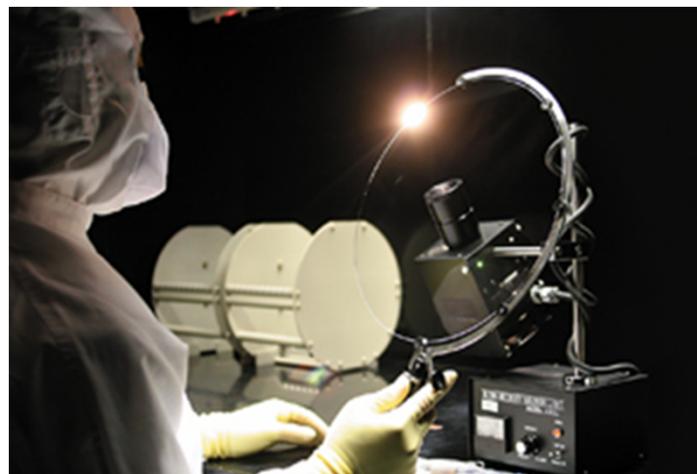
画像提供:キヤノン電子(株)

当社の「高純度合成石英ガラス」、「光学ガラス」及び「高精度研磨技術」が大手医療メーカーに認められ、現在コロナウィルスの検査に使用されているPCR検査器やワクチン開発のための薄膜干渉フィルター基板として採用されております。

医療用薄膜干渉フィルターを製造している薄膜コーティングメーカーへ、「合成石英ガラス」と「光学ガラス」の研磨基板を供給しています。この薄膜干渉フィルターはコロナウィルスを検出するPCR検査に使用されています。

また、ウィルスの突然変異の研究に使われるDNAの塩基配列ツールにも使われており、ワクチン開発にも貢献しています。

当社は、内視鏡や眼底カメラ向けの医療用ガラスも提供しており、医療分野にも幅広く当社のガラスが採用されております。



20/10期業績予想修正のまとめ

通期業績予想

(単位:百万円)

	期首予想 (19/12/12)	1Q予想 (20/03/12) 期首予想を取り 下げ未定	2Q時点 (20/06/11)	3Q時点 (20/09/10)	実績
売上高	22,800	—	17,400	17,400	17,873
光事業	12,500	—	9,000	9,300	9,527
光学プレス品	10,500	—	7,100	7,200	7,404
光学ブロック品	2,000	—	1,900	2,100	2,122
エレクトロニクス事業	10,300	—	8,400	8,100	8,345
特殊ガラス	6,900	—	4,900	4,600	4,863
石英ガラス	3,400	—	3,500	3,500	3,481
営業利益	800	—	△2,500	△2,200	△1,724
光事業	△150	—	△1,600	△1,250	△1,000
エレクトロニクス事業	950	—	△900	△950	△724
経常利益	900	—	△2,200	△1,800	△1,319
純利益(親会社株主に帰属)	600	—	△2,600	△2,200	△4,243
為替レート	期中平均	期中平均	期中平均	期中平均	期中平均
円/1USD	105.00	—	105.00	105.00	107.61
円/1EUR	120.00	—	120.00	120.00	121.18
年間配当金(円)	15.00	—	未定	未定	10.00

四半期推移

(単位:百万円)

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績
売上高	4,418	5,026	3,999	4,429
光事業	2,673	2,628	1,913	2,311
光学プレス品	2,173	2,028	1,409	1,793
光学ブロック品	500	600	504	518
エレクトロニクス事業	1,744	2,398	2,085	2,117
特殊ガラス	926	1,435	1,136	1,364
石英ガラス	818	962	948	752
営業利益	△452	△548	△421	△302
光事業	△322	△166	△331	△179
エレクトロニクス事業	△129	△382	△90	△122
経常利益	△470	△427	△336	△84
純利益(親会社株主に帰属)	△638	△496	△406	△2,701

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光學(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



商 号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所 在 地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創 立：1935年(昭和10年)10月1日
 資 本 金：58億5千5百万円
 事 業 内 容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従 業 員：連結1,508名(単体439名) (2020年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株 主 数：8,344名 (2020年10月31日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役常務執行役員	青木 哲也	営業、マーケティング統括
取締役常務執行役員	後藤 直雪	生産、技術、知的財産統括
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	内田 省寿	
取締役(社外)	軒名 彰	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	高木 晴彦	
監査役(社外)	長島 和彦	
監査役(社外)	杉田 光義	

大株主

(2020年10月31日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーホールディングス(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.3%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	(株)トプコン	673	2.8%
6	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
7	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	421	1.7%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	株式会社日本カステディー銀行(信託口)	281	1.2%
10	株式会社日本カステディー銀行(信託口5)	164	0.7%

※持株比率は、自己株式1,110千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

- 1935 10月: 小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月: 光学ガラス熔解開始
- 1944 2月: 株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月: 白金坩堝熔解開始
- 1958 4月: ランタンガラス生産開始
- 1961 1月: 連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月: 足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月: オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月: 低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月: Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月: オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月: ステッパー用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月: 高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月: 株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月: 台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月: 紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
5月: 有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月: 結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月: OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月: 環境対策光学ガラス生産開始
11月: OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月: ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月: 光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月: ISO9001認証取得
- 1999 1月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月: 低光弾性ガラス生産開始
4月: ISO14001認証取得
10月: 真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月: 小原光学(香港)有限公司設立
6月: 大規模連続熔解開始
12月: 小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月: 東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月: ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月: 低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
9月: オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月: 株式会社オハラ・クォーツを連結子会社化
- 2011 3月: 華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月: 台湾小原光学材料股份有限公司設立
8月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月: ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月: 非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
12月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30°Cで駆動
- 2017 5月: 世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
12月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月: NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
8月: 非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
2月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
3月: 足柄光学株式会社を解散

主要製品

製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



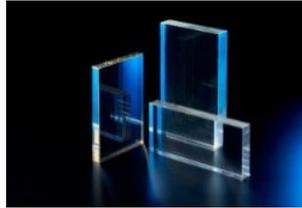
研磨プリフォーム (レンズ加工品)



ガラスモールドレンズ (GMO)

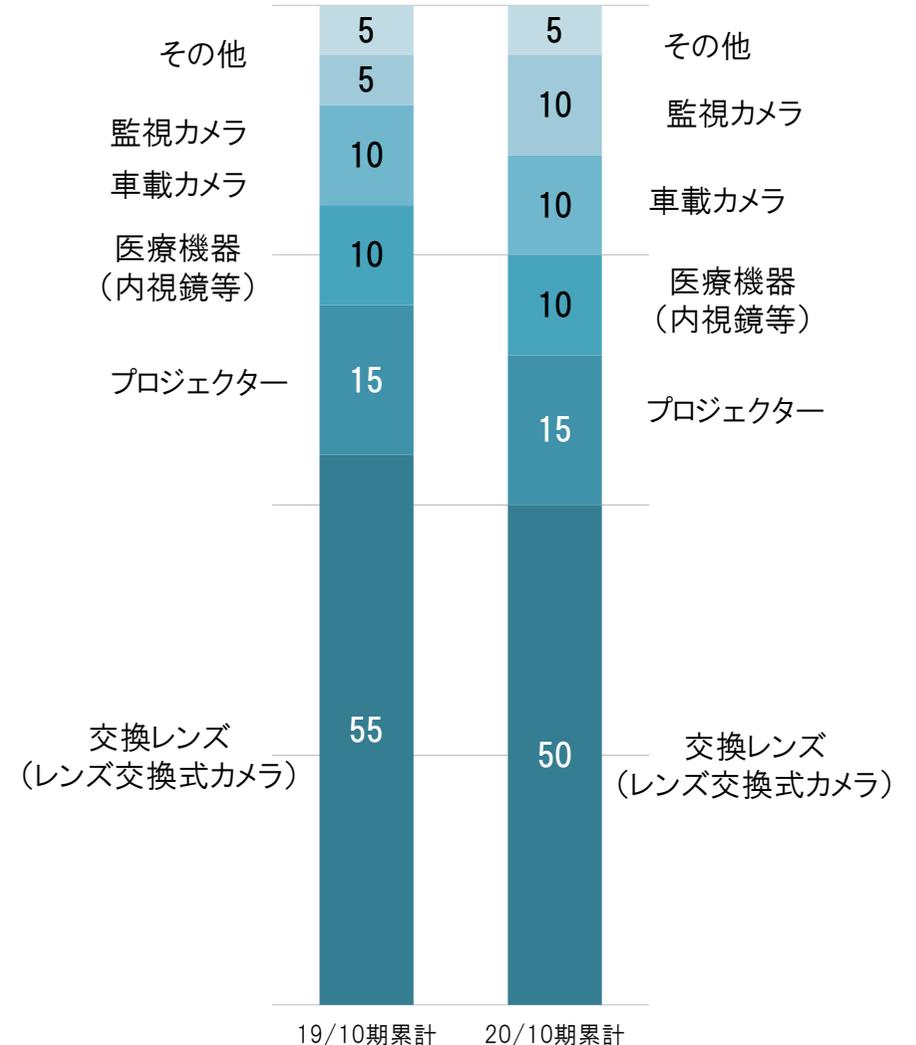


光学ブロック品



※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

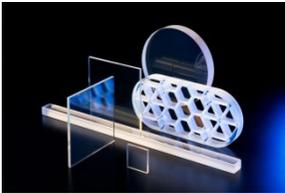


主要製品

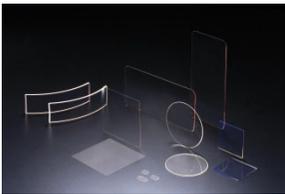
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



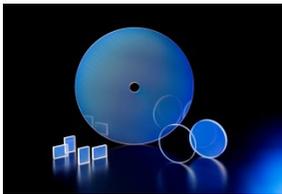
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™



線用高均質性
光学ガラス



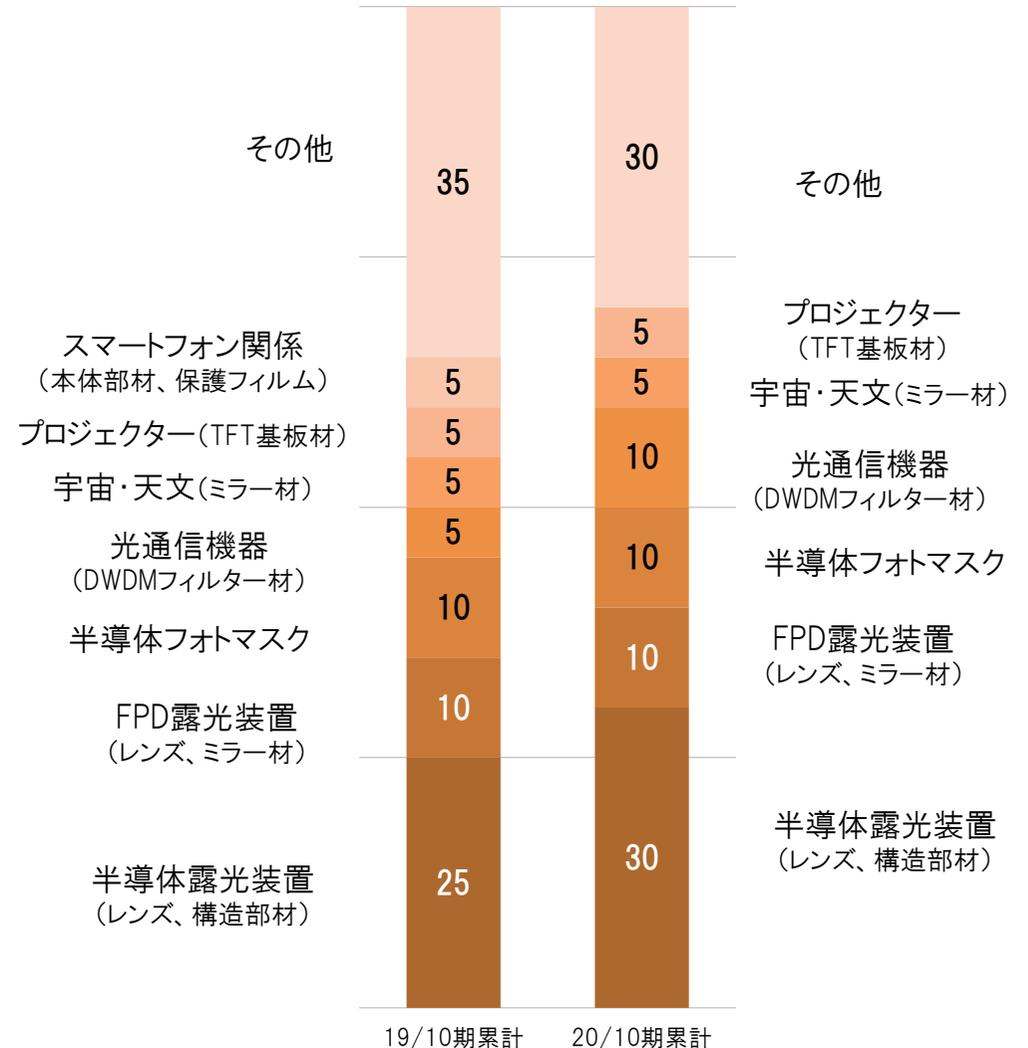
光通信機器向け
ガラス素材
WMST™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定



光学ガラスの代表的な製造工程



経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心で快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにするので、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく

OHARA

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。